

第5回

・開催日時：2012年12月6日 19:00~21:00
 ・場所：棚尾ふれあい館
 ・参加人数：21名

ワークショップニュース

●ワークショップ開催の目的

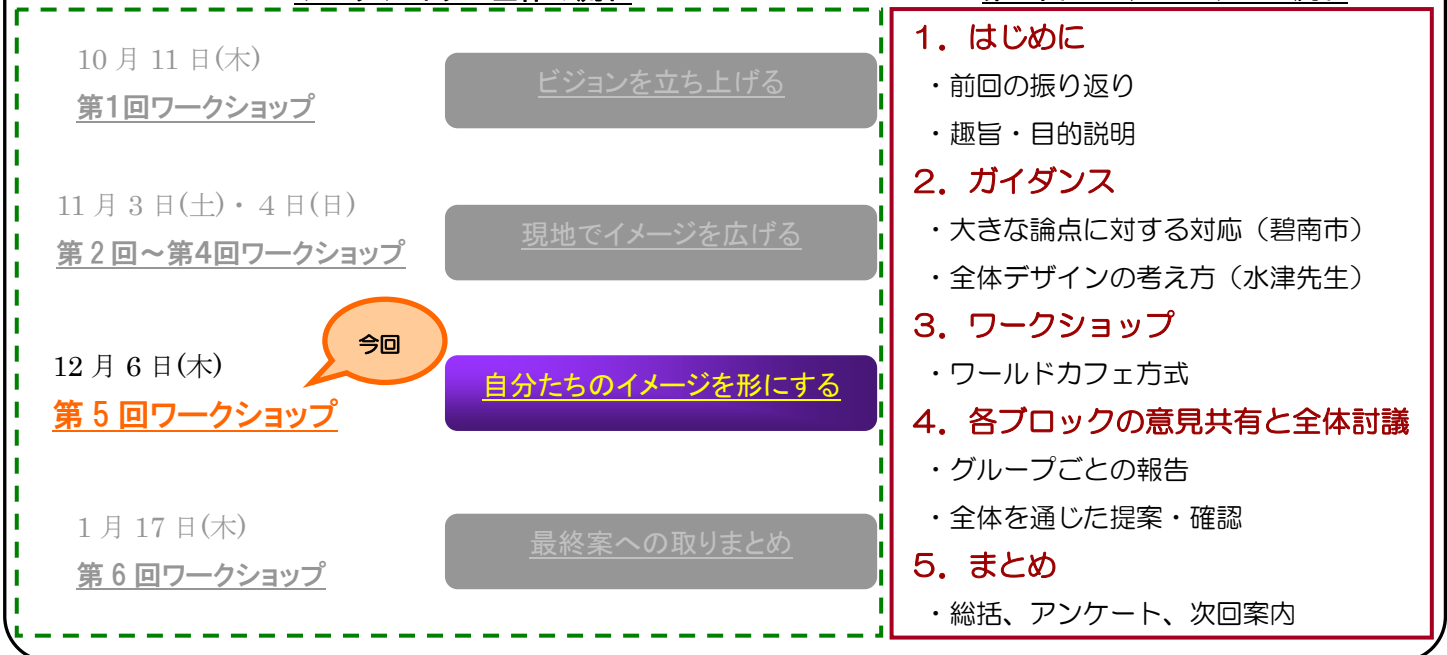
本ワークショップは、平成16年3月31日をもって廃線となった名鉄跡地の利用方法について、公園や緑地を整備するための施設内容など基本的なことを市民の皆さんと一緒に考えます。ここで決定された内容を、公園や緑地の設計に反映していきます。

●第5回ワークショップの概要

本ワークショップは、今年度中に全6回の開催を予定しています。
第5回目の今回は、第2回~第4回の現地歩きで広げたイメージを、形にして頂くことを目標に行いました。話し合いは、「大浜ブロック」、「棚尾ブロック」、「旭ブロック」の3つのグループに分かれ、一定時間ごとにテーブルを移動する「**ワールドカフェ方式**」で行いました。
 「ワールドカフェ方式」は、会議のような堅苦しいものではなく、リラックスしたオープンな空間で話し合いを行うことにより、「**発言しやすい**」、「**参加者間に共感が生まれる**」などの効果が期待される方法です。今回は、この「ワールドカフェ方式」を採用し、全ての参加者の方に3つのグループ全ての話し合いに参加していただきました。
 今回使用した図面は、前回提案された意見を、水津先生にデザインとして紙面上に落としていただいたものです。参加者の方には、この図面を基に話し合いを通じて、さらにイメージを膨らませていただき、より具体的な意見を出していただきました。

ワークショップ全体の流れ

第5回ワークショップの流れ



●第5回ワークショップの内容

1. はじめに

第5回のワークショップに先立ち、三矢先生より、第2回～第4回ワークショップの振り返りや第5回ワークショップの趣旨、目的、手法について説明して頂きました。

【前回の振り返り】：第2回～第4回ワークショップニュース参照

【目的】：現地を歩いて広げたイメージを形にする。

【話し合い形式】：ワールドカフェ方式

話し合いの方法

今回のワークショップは、大浜・棚尾・旭の3つのグループでの分科会という形式で行いました。1回の話し合いを25分と設定し、時間経過後、参加者の方には次のグループに移動していただきます。25分の話し合いを3回行い、全員が全グループでの話し合いに参加したところで、分科会は終了です。

話し合いでは、前回ワークショップで出された意見をもとに作成された平面プランやスケッチについて、意見や提案を出していただきました。



三矢先生による説明です。



皆さん真剣に聞いています。

2. ガイダンス 1/2

◆大きな論点に対する対応について by 碧南市

前回ワークショップ時に提案された意見について、実現性を踏まえた検討を行った結果、下記の5つの項目については、**実現が難しい**という結論となりました。その内容と対策について、碧南市より説明いたしました。

◇5大論点

1. ブリッジ及び地下道

内容：車道の上を渡る様なブリッジや車道の下をくぐる地下道については、コストの問題から実現が難しいです。

対策：軌道敷のラインに準じた形で、堀川の上に橋をかけることは実現することが可能です。

2. 電車の設置

内容：実物の電車を名鉄より譲り受けて配置することについては、名鉄との協議をした結果、現在廃車となっている車両もなく、車両の輸送に多額のコストがかかることから実現が難しいです。

対策：休憩施設やトイレ、遊具のデザインの中で電車をモチーフにするなどの工夫を行います。

3. 喫茶店の設置

内容：収益の見通しが見込めないことから、設置しても担い手がいなく考えられるため実現が難しいです。

対策：喫茶店を経営する事業者、**コミュニティカフェをやりたいという地元の方**がいれば設置を検討します。

4. 駐車場の設置

内容：緑地・広場の規模から、歩行者や自転車での来園を想定しているため、原則整備しません。

対策：イベント時に搬入車両が乗り入れることは問題なく、公共施設や周辺の企業やお店の駐車場を借りることも考えられます。

5. 水辺の整備

内容：敷地内の湿地を活用したビオトープづくりについては、維持管理が困難であることから実現が難しいです。

対策：水辺に植物を植えたり、生き物がいる場所を活用する**担い手、活動団体**がいれば、整備することは可能です。なお、棚尾地区にある水路は排水路としての機能があるため、手を加えることはできません。



話し合いのテーマとなる「5大論点」の説明です。

コミュニティカフェをやる人いませんか？

ビオトープづくりや生き物の世話が好きな人いませんか？

2. ガイダンス 2/2

◆全体デザインの考え方について by 水津先生

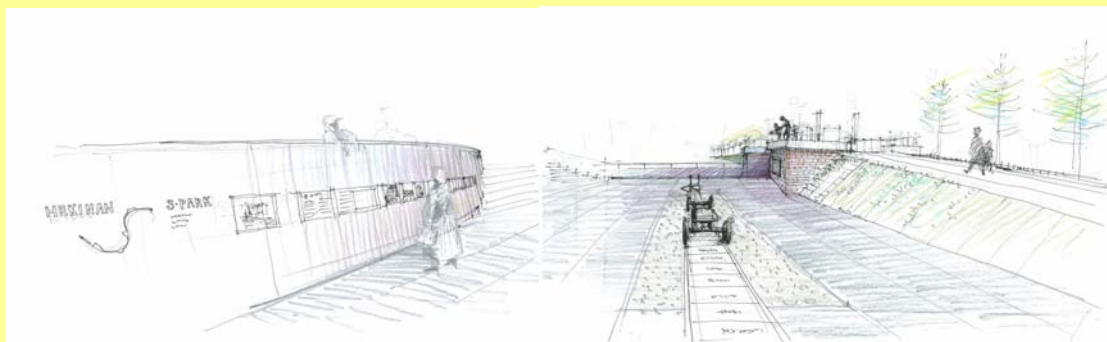
今回のワークショップでは、前回提案された意見を反映させた図面・スケッチをもとに話し合いを行いました。使用した図面・スケッチは、前回提案された意見を整理し、デザインとして紙面上に落としたものとして、水津先生に作成していただきました。

話し合いを行うにあたり、各ブロックのデザインについて、水津先生より説明していただきました。

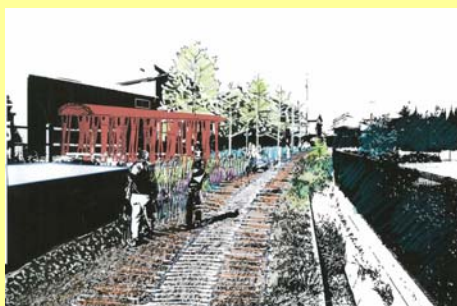


水津先生による、各ブロックのデザインの説明です。

大浜ブロック



全体図
歴史
古写真
市民ギャラリー
モニュメント

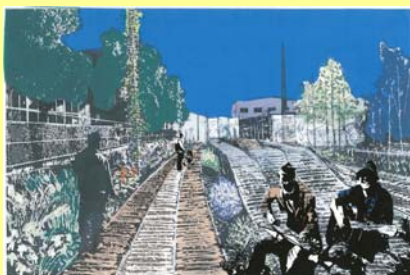


玉津浦駅(1)
(休憩シェルター
高木
ホーム)



玉津浦駅(2)
(階段状のホーム
長いベンチ
木陰)

棚尾ブロック



棚尾駅跡公園

(段差を心地よさに、固い床と柔らかい床、広場と緑陰、電柱を垂直緑化(ノウゼンカズラ等))



緑の小径と並行するところ

(緑が多い、休憩ベンチ、緩やかなカーブ)



ホーム付近

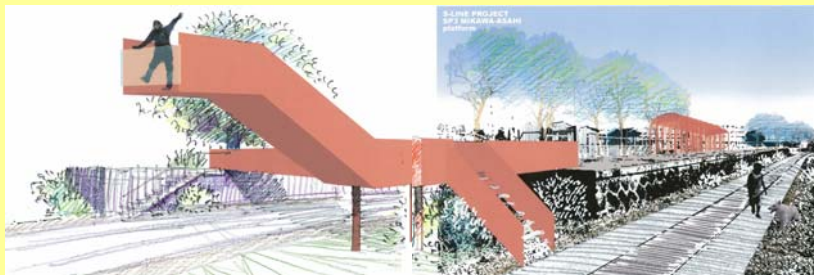
(電柱を活かして垂直緑化、平岩鉄工のクス、園芸植物による花壇)

旭ブロック



三河旭のビオトープ

(湿地、水生植物、ポンツク)



三河旭駅の公園

(プラットホーム、列車の残像シェルター、見晴らし台、大きなエノキ、木陰、子供の遊び場)

3. ワークショップの成果 1/3～大浜ブロック～

◆大浜ブロックでは、以下のようなアイデアや意見が提案されました。

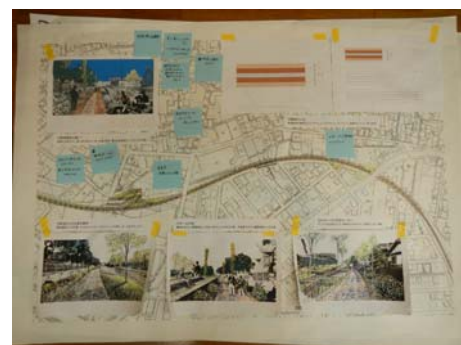
エリア	アイデア・意見等
全体	碧南市及び鉄道の歴史を感じることができるよう遊歩道として整備する。
	遊歩道全体でデザインの統一を図る。
	鋳物を活用したベンチを設置する
	ソーラーやLEDを使用した外灯を設置する。 →鋳物を活用し、ガス灯のようなレトロな雰囲気を出す。
	上下線別に距離標〔ゼロキロポスト（鉄道線の距離標の一種で、路線の起点となる場所を標した標識）を含む〕を設置する。（例：「スタートから〇〇m」）
	高木の樹種選定は慎重に行う。 →高木は見通しを悪くしてしまうこともあるが、夏場は木陰の涼しい場をつくり出すといったメリットがある。 →落葉広葉樹の場合は、落葉の後始末の問題があるため、周辺住民の理解・協力が必要。 →イチョウの場合は、ギンナンが落ちて臭いため、やめたほうがよい。
遊歩道 導入部 広場	旧棚尾港や塩田跡地の歴史紹介やモニュメントなどを設置する。 →全体図のスケッチは1つの案として承認されたが、それにこだわる必要もない。
	トロッコを設置する。 →地面に溝を掘り、走行できるようにするなど。
	トイレを設置する。 →8月中旬～9月中旬頃の堀川でのハゼ釣りをする多くの方も利用できる。
玉津浦 ふれあい 広場	旧臨港線の歴史を感じることができるよう整備する。 →例えば、創設者(わたなべ ひではる氏)の記念碑を移設してくるなど。
	プラットフォーム跡上や側面のベンチ設置案は賛成された。 →木では腐るため、スチール製とするなど、材料には工夫が必要。
	広場北側のスペースには、ストレッチができるような健康器具(遊具)を設置する。
	[要望事項] 広場北側のスペースに、レールバス(実物)を設置してほしい。
道路横断部	歩行者用の信号機を鉄道の信号機のデザインとする。
	道路横断部や広場などに、名鉄廃線跡地のシンボルとして、手動で切り替えるポイントを設置する。
	特にサークルKの横断部は危険性が高いと考えられるため、横断歩道や歩行者信号などの設置を検討すべき。
トヨタ 社宅前	[その他] 湿地(水溜り)を活用したピオトープの整備については、学校授業の一環で体験活動などが行えればよいと考えるが、管理面で、例えば地域の高齢者や保育園等で管理することができるのかといった課題がある。



3. ワークショップの成果 2/3～柵尾ブロック～

◆柵尾ブロックでは、以下のようなアイデアや意見が提案されました。

エリア	アイデア・意見等
全体	地域住民の日常生活のためのデザインと、地域外から集客し、地域の活性化のためのデザインのどちらも必要である。
	夜は暗くて危険であるため、地区全体に外灯を設置する。
	外灯の設置は、農作物に影響を及ぼさないように配慮する。 →畑周辺は、外灯の設置間隔を大きくする(50mピッチ)などの対策を行う。
	※現在、緑道沿線で畑のある場所は 1 箇所だけであり、この場所を重点的に対策すれば問題ないと考えられる。
	電車の走っていた頃の風景やイメージを残すために、舗装のデザインは、軌道の線形だけではなく、枕木のデザインも取り入れる。
	ビオトープは、維持管理に手間がかかり、その担い手もないと考えられることから、今回の計画に導入するのは難しい。
	[要望事項]
	地域外からの利用者を呼ぶために、駐車場を整備してほしい。
	緑道と民家が隣接している箇所は、民家沿いに、目隠し用のフェンス又は植栽を整備してほしい。
	[その他]
柵尾 ふれあい 広場	樹木の落ち葉の管理方法の検討が必要である。
	三河線が走っていたという証となるような記念碑(車輪など)を設置する。
	災害時に活用できるように、防火水槽などの防災機能を導入する。
	駅舎をイメージさせるために、ホームの上にシェルターを設置する。
	現在の計画のスペースで出来るイベントを行うため、広場の大きさは現在の大きさで問題ない。
	八柱神社や毘沙門のPRを行うための案内板などを設置する。
	[要望事項]
防災倉庫は若宮公園に設置しているが、車の通行ができず利用しづらいので、移動してほしい。	
[その他]	
広場を活用して、産直市を行ってはどうか。	
曲線部の 並木	本計画地のカーブは、今回の計画の中でも特徴的かつ魅力的な要素であるため、このカーブの線形を並木により際立たせるという提案は取り入れる。
川端町周辺	[要望事項]
	ごみ分別収集ステーションは遠いため、並木の間を設置するスペースを確保してほしい。
	→集積場として整備するのではなく、並木の間を一部多目的広場として整備する。 現在の計画では、横断道路を真っ直ぐ通すのが難しいと思われる箇所があるため、横断道路の整備箇所を見直してほしい。



3. ワークショップの成果 3/3～旭フロック～

◆旭フロックでは、以下のようなアイデアや意見が提案されました。

エリア	アイデア・意見等
全体	<p>鉄道跡地ということが感じられるような距離表(メートル)やカーブの半径を示すサインを設置する。サインには、自分の位置を把握しやすいように方位も合わせて示す。</p> <p>→舗装構成のスケッチのように、舗装に距離表やカーブの半径を表示するイメージ</p> <p>舗装は、軌道の線形デザインだけではなく、枕木もデザインに取り入れる。</p> <p>軌道が分岐する箇所には、ポイントのオブジェ(転轍機)や信号機のオブジェを設置する。</p>
旭ふれあい広場 (車道：蜷川沿いで横断)	<p>展望台のデザイン</p> <p>→デザインが良いので賛同する。</p> <p>→周辺と調和するように自然なデザインとすることが望ましく、反対する。</p> <p>展望台は、今までそのような場所がなく、人が集まる仕掛けとして良いため設置する。</p> <p>→子供が遊ぶことのできる仕掛け(すべり台やブランコなどの機能を付加)を取り入れる。</p> <p>プラットホームは、遊具を設置し、フィールドアスレチックのような、子どもたちが遊ぶことのできる場所とする。</p> <p>プラットホームの高さが1m以上の場合は手すりを付けるとある(水津先生の説明)が、手すりをつけることでプラットホームとしてのイメージがなくなるため手すりは設置しない。(自然な感じの方が良い)</p> <p>シェルターは、電車をイメージさせるものではなく、駅舎をイメージさせる、又は駅舎の復元を行う。(旭駅はほとんど電車が来ない駅であったため電車のイメージはあまりない)</p> <p>→様々な造形物をつくり、新しい駅舎のイメージとするよりは、新たなものの導入は極力控えて、昔のような駅舎を復元させることで、自然な感じのデザインとする。</p> <p>→駅舎には休憩施設(自動販売機、ベンチ、トイレ)を設置する。</p> <p>植栽は、周囲から広場内が見えないように外周を囲んでしまうと閉鎖的な空間となり、不審者などが集まる危険性もあるため、できるだけオープンな空間となるように配置する。</p> <p>→高木主体で見通しのきくように整備する。</p> <p>[要望事項]</p> <p>売却用地と前面道路の間に歩道を整備してほしい。</p> <p>売却用地はなくし、広場として利用してほしい。</p>
旭ふれあい広場 (車道：広場内で横断)	<p>広場は横断道路を境に、西側は子供をテーマ(遊具の設置)とした公園、東側は健康(高齢者、健康遊具)をテーマとした公園に分けて整備する。</p> <p>広場が分断されるため横断道路を整備する必要はない。</p>
平七緑地 周辺	<p>ビオトープの設置について[賛同]</p> <p>→子ども会や中学校のボランティア、中部電力などの企業(ヒーリングガーデンの実績がある)などに担い手になってもらうことが可能であるか検討する。</p> <p>→雨水利用やごみの清掃を自分たちで行うなど、管理費を抑えることが考えられる。</p> <p>→管理費用がかからないように、雨水を利用したため池のようなものとしてもよいのではないか</p> <p>→ビオトープを整備する場合には、危険がないように周りにフェンスを設置してはどうか。</p> <p>ビオトープの設置について[反対]</p> <p>→子供が遊べるような遊具を設置した芝公園にしてほしい。</p> <p>→ブランコやすべり台などが設置された子供が遊ぶことのできる広場として整備する。</p>
道路横断部	<p>道路横断部はカーブしており、見通しが悪いため危険であり、押しボタン式信号の横断歩道などの検討が必要。</p>



★全体を振り返って

A 大浜

- ・緑道全体の「**入口広場**」としての性格をもたせよう。大浜地区に留まらず、**碧南市全体の歴史(鉄道、港にまつわるもの)**を伝えるモニュメントをおこう。
- ・ベンチや街灯のデザインに、**伝統産業(鋳物等)**の材料を活用しよう。
- ・玉津浦駅の跡地整備では、**臨港線の歴史や記憶を伝える工夫**をしたい。
- ・「上り」と「下り」、それぞれの視点で、「**現在0km 地点**」の表示があると良い。ウォーキングする時に手掛かりになる。

B 棚尾

- ・「長大な曲線を描くカーブに**並木を整備**して、その変化を引き立てる」という水津先生の提案には、多くの共感が寄せられました。
- ・**並木の下あたりに、ごみの分別所**をおいてもらえないか、という提案がありました。
- ・駅の跡地広場にある電柱にライトをつける提案があったが、さらに並木を含めて、**街灯の整備**をお願いしたい。
- ・駅の跡地広場は、**防災広場としての性格**も持たせたい。また、**ホームの上にシェルター**(休憩施設や遊具の入る施設)を乗せて、**さながら駅舎にみせる**提案もあった。
- ・**地元住民の日常的な利用**と、**外から人を呼べる斬新な仕掛け**のどちらを優先するかが議論になったが、結論としては、**どちらも大事**ということになった。

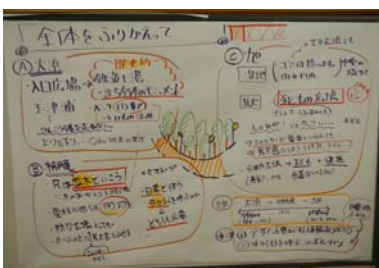
C 旭

- ・駅跡地広場につながる湿地の整備については、「**雨水利用をする程度の自然な水辺**(過度な整備をしない)」で良いという結論になった。地元の方からは「ゴミ拾いくらいなら出来る」とのこと。
- ・また、その広場の湿地(生物が生息できる)整備には、ノウハウを含めて、中部電力に協力を要請するべき、という提案もあった。加えて、**湿地の面積を減らしてでも、芝生広場が欲しい**とする意見もあった。
- ・駅の跡地に関しては「**フラットホームを活かした子どもの遊び広場**」としたい。
- ・水津先生提案の「**電車風の展望台**」については「**もっと自然なデザインにして欲しい**」という意見と「**カッコよくていいじゃないか**」という意見に割れた。
- ・但し、「電車の本数が少なく、電車があった記憶が薄いので、**駅舎のイメージでデザイン**をして欲しい」という意見にまとまった。休憩施設、トイレも入れてもらいたい。
- ・**広場の使い分けとしては、西側に子ども向けの遊び広場、東側に高齢者向けの健康広場**とする提案があった。



★三矢先生より

「大浜の広場は、碧南市全体の歴史を象徴するシンボル」「棚尾の広場は、日常使いと外の人も呼べることの両立」「旭の広場は、雨水利用の自然な湿地、子どもや高齢者の憩いの場」という順番に、市外への開き方、使われ方のグラデーションが見えてきたと思います。



★水津先生より

碧南市のシンボルという視点、ご近所という視点、市民活動からの視点、子育ての視点、いろんな視点のお話がありました。どれも大事な視点です。すぐに優先順位を考えるのではなく、いろんな使われ方が可能な公園のデザインを考えてみたいと思いました。また、市外の方が見に行きたいと思うような斬新なデザインにしてほしいという意見にはとても勇気づけられました。



★ワークショップの様子



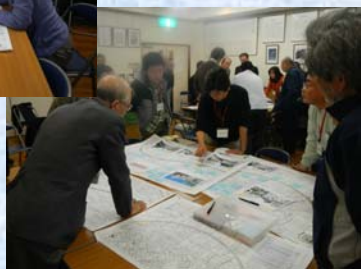
事務局挨拶により、ワークショップスタートです。



三矢先生の説明で、前回の内容を振り返ります。



各グループで様々なアイデアや意見が出されています。



水津先生に作成いただいた図面・スケッチの説明です。



各グループの発表の後、三矢先生より講評を頂き、ワークショップは終了です。



ワークショップ終了
お疲れ様でした!

5. アンケート概要・次回案内

◆アンケート回答

- ・最初は自分の意思で参加した訳ではなかったので、深く考える事はなかったが、何度か参加して、名鉄跡地を自分達で計画し、未来の子供達に夢を与える物を造りたいと思った。
- ・他の地区で、知らない事が聞けて良かった。

◆次回の案内

- 第6回ワークショップ
- 日時：2013年1月17日
- 内容：これまでの提案を基に、最終案へのとりまとめを行います。

◆発行元・問い合わせ先

〒447-8601 愛知県碧南市松本町28番地
碧南市役所開発水道部公園緑地課公園緑地係（担当：渡辺・高須）
TEL：0566-41-3311 FAX：0566-46-9456 E-mail：kouenka@city.hekinan.lg.jp
URL：<http://www.city.hekinan.aichi.jp/KOUENKA/index.htm>